

平成 29 年 3 月 30 日

県 土 整 備 部

北極海航路に関する共同研究成果要点

1. 研究の内容

北極海航路の航行時期である平成 28 年 6 月～12 月(7 か月間)において、北極海航路を航行した船舶について衛星 AIS データに基づき分析した。

2. 平成 28 年成果のポイント

①北極海(ロシア側)横断航行数

- ・北極海航路ロシア側(ノバヤゼムリヤ島からウランゲリ島周辺海域まで)を横断した船舶は、平成 27 年の 27 航行を大幅に上回る 63 航行。
- ・内訳は貨物船等 40 航行、客船 2 航行、その他重量物運搬船等 21 航行。
- ・このうち、津軽海峡を航行した船舶は平成 27 年の 0 から 5 航行へと皆増。宗谷海峡を航行した船舶は 19 航行。

②北極海と津軽・宗谷海峡の船舶航行

- ・北極海(ベーリング海峡以北)から津軽海峡を通航または津軽海峡を通航してから北極海を航行した船舶は、上記 5 航行も含め、少なくとも 16 航行(平成 27 年は 14 航行)。
- ・内訳は貨物船等 12 航行、その他重量物運搬船等 4 航行。
- ・北極海から宗谷海峡を通航または宗谷海峡を通航してから北極海を航行した船舶は少なくとも 36 航行(平成 27 年は 39 航行)。

③特徴的な船舶の航行実績

(1)ヤマル半島での LNG 基地開発に伴う物資輸送等の活発化

- ・北極海横断航行数 63 航行のうち、37 航行が開発拠点にあるサベッタ港に寄港していることを確認(平成 27 年は 4 航行)。そのうち 4 航行が津軽海峡を通過していることも確認。
- ・なお、Lloyd' s List Intelligence 社(英国の船舶情報調査会社)が提供するデータによると、平成 28 年のサベッタ港への寄港回数は約 500 回と、平成 27 年から倍増している。

(2)クルーズ

- ・北極海航路(ロシア側及びカナダ側)において、クルーズ船 5 隻の航行を確認(平成 27 年は 3 隻)。
- ・平成 28 年は初めて 70,000 トンクラス(定員 1,000 名以上)の大型クルーズ船が、北極海航路(カナダ側)を航行。なお、同船は平成 28 年 4 月、青森港への寄港実績あり。

今回明らかになった最新の北極海航路の動向(データ)は、ヤマル地区の LNG プラント建設の本格化に伴い、北極海航路の商業利用が始まっていることを裏付けるとともに、建設資材等の物資輸送に伴い、実際に津軽海峡を通航していることも確認されました。県としては、引き続き共同研究の枠組みに参加し、津軽海峡の可能性を検討していくための基礎資料として、最新の動向や知見を継続的に把握・蓄積していきます。